

週間感染症情報

2019年31-33週 2019年7月27日より2019年8月18日まで

31週 32週 33週

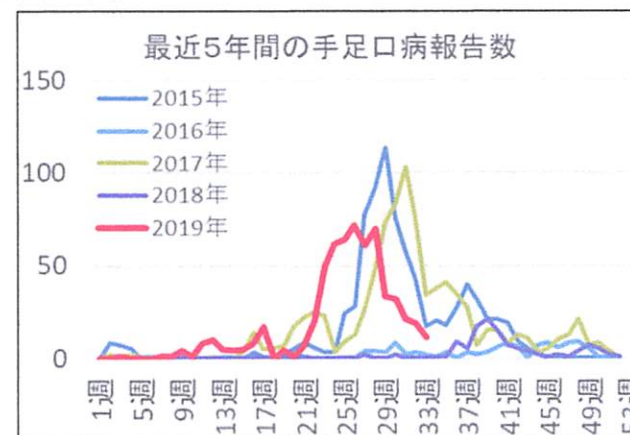
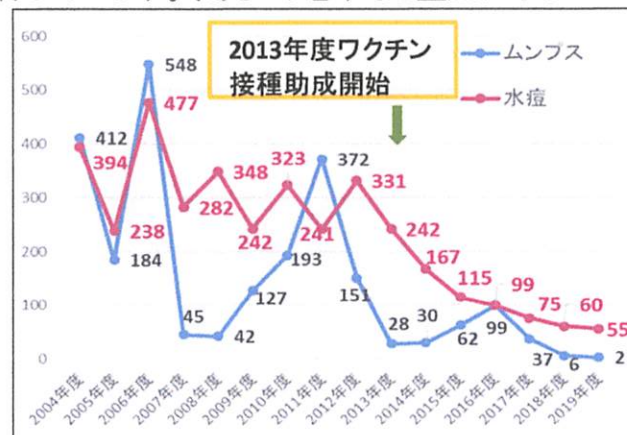
麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)	4	1	1
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症	7	5	6
手足口病	21	19	11
ヘルパンギーナ	5	7	1
伝染性紅斑			1
感染性胃腸炎	24	15	7
ロタウイルス(再掲)			
便アデノウイルス(再掲)	1	1	1
突発性発疹	4	2	
伝染性膿痂疹(とびひ)	14	12	8
ヘルペス性口内炎			
アデノウイルス感染症	7	10	7
RSウイルス感染症			
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス			
インフルエンザ(臨床診断含む)			
インフルエンザA			
インフルエンザB			

遅くなりましたが、お盆休みを挟んだ3週分の報告です。

水痘は、ワクチン接種済でも感染・発症します。しかし、軽症で診断に苦慮する例も多いです。ワクチン接種率が30%以下であった2013年以前は、幼児期にほとんどの小児が罹患して300例前後の報告がありました。現在では定期接種となり接種率が90%を超えて、左下のグラフの様に大きく減少しました。最近では、ワクチン未接種で罹患する年長児や成人の重症例を見かけます。自費になりますが、ワクチンを接種しましょう。

手足口病は8月に入り減少しました。コクサッキーA6とは異なる、発熱が目立たないウイルスの流行があります。2回罹患例もみかけます。2-3週間して爪の剥奪のみられる症例もあります。自然治癒しますので心配いりません。感染性胃腸炎は多くありません。発熱、血便、腹痛があり、焼き肉関連のカンピロバクター陽性例が2例、生卵によると思われるサルモネラO4群の姉妹例がありました。

アデノウイルス感染症は市内全域より報告があります。結膜炎を伴う咽頭結膜熱(プール熱)の症例もありました。咳鼻汁の感冒症状の症例が増えてきました。市内ではRSウイルスの報告はありませんが、全国的には流行しています。乳児が罹患すると重症になるので注意が必要です。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> 変更になりました。)